

正副会長会議 報告書

□日時 令和 5 年 11 月 16 日（木）13：00～14：45
□会場 さいたま市「すこやかプラザ」2階「研修室3」

1 開 会

2 参加者 正副会長 5 名 牧野常務 吉田局長 眞矢 松尾 大塚

3 部会報告

(1) 研修部会

⇒前回の正副会長会議にて承認いただいた視察研修について 2 月 26 日の開催で決定した。電子マップ・タブレットの利活用・地区民児協の運営・協力員制度の 4 点について話を伺った後意見交換会を実施。
2 月の広報誌掲載についてはアンケートを集計中なので記事用意にもう少々時間を頂きたい。

松尾主事

視察研修に先立ち、県内の実施状況についてアンケートを実施した。アンケート結果と広島市の協力員制度紹介記事（View）を本日の資料として追加配布した。アンケート結果について紹介。当資料は全国大会参加者および相模原市視察研修参加者に配布予定。

(2) 地区民児協支援部会

⇒11 月 9 日に正副部会長会議を実施。県大会で提案した 7 課題に対する意見を部会員からいただいております、正副部会長で方向性を検討し、次回の全体会で確認を行う。

(3) 広報部会

⇒県大会特集号は校正が完了し、印刷会社の発行待ちである。2 月号の記事について依頼をしているが、ブロック別の記事案はじめご協力をお願いします。12 月に全体会議を実施して予定である。県民児協の創設 50 周年は 2023 年ではないか。

吉田事務局長

⇒平成 2 年の県大会は全国大会と被ったため中止となっているため。

牧野常務理事

⇒県大会 50 回記念として特集号を発行する形で広報部会の承認をとれば良いと思う。

(4) 主任児童委員部会

⇒11 月に分科会 1・2 を実施した。県大会の主任児童委員参加枠の設置は好評であった。県大会発表のボリュームについては後半をもう少し増やした

い・他部会の取り組みを聞いて良かったという意見をいただいた。来年1月以降引き続き取り組みを進めていく。常務理事から4分科会合同の発表会の提案もいただいた。

第2分科会では川口市の事例発表会を実施した。ネットワークの構築をはじめ勉強となる話を聞いた。プレイパークの話題について今後分科会で話せたらと考えている。

第3分科会では、川口市の事例発表にて講師紹介をいただいた服部孝氏より研修を実施することとなった。講師は現在草加児相の職員であり、具体的な事例は難しいが現場の意見を伺えるとのこと。全体での虐待に関する研修も今後は実施予定。

4 協議事項

(1) 令和6年度および令和7年度ブロック別市町村民児協会長連絡会議について

⇒案について説明した。

藤崎副会長

「取り上げていただいてありがたい、県大会で関心を持っていただけたと思うのでブロック別で本音話を話してもらえればと思う。ただし欠員のいない市町村もあるかと思うので+αの議題もあってよいのではないか。」

牧野常務理事

「社会福祉課のアンケートの回答についてきちんと事務局から話してもらった後、知事への要望を予定している。要望の後にこのテーマで協議するのはどうなのか。先にブロック別の前に62市町村会長で話し合う必要があるのではないか。」

志子田副会長

「日程は早めに決める必要があるが、テーマについては情勢が動くことも予想されるのでテーマ決定は年明け・年度明けでも良いのではないか。」

牧野常務理事

「眞矢主任個人の意見を受けた私個人の意見だが、今年度は単位民児協副会長をお呼びしたので次回は主任児童委員を呼ぶのはどうか。」

藤崎副会長

「知事への要望に対するレスポンスはすぐには出てこない可能性が高い。ブロック別のテーマについては欠員を取り扱っていただくのはありがたいが、他の部会の意見を伺ってテーマを決定するのはどうか。」

牧野常務理事

「欠員の問題については令和7年度5月頃に行い一斉改選に備えるのはどうか。」

藤崎副会長

「令和7年度は関東ブロック連絡協議会も主催であるため、ブロック別の開催は7年度控えるのはどうか。」

牧野常務理事

「欠員の問題は知事への要望のレスポンスによって対応が変わるので令和6年度柔軟に対応する必要がある。」

藤崎副会長

「関東ブロックに県内 62 市町村の会長を呼ばないのであればブロック別を開く必要も出るし、開催しないことを決定するわけではないが関東ブロックは令和 7 年度の集中すべき事業であることは間違いない。」

寺田会長

「令和 6 年度は 5 月に県外研修を実施するのであればそれと抱き合わせでブロック別会長会議を開催するのはどうか。」

牧野常務理事

「令和 6 年度 5 月は県外研修と理事会・評議員会を合同で開催する旨既に決まっている。」

藤崎副会長

「開催当番市は開催することを期待しているから、開催しない年度があった場合は、その年の開催当番市を次年度当番市として以降ずらす。」

⇒令和 6 年度の開催は 9～10 月の実施。

⇒令和 6 年度のテーマについては今年度中に決める方向で一旦先送り。

⇒令和 7 年度の実施は令和 8 年度にずらして実施する。

(2) 令和 7 年度関東ブロック民生委員児童委員活動研究協議会について

⇒案について説明した。

寺田会長

「料金表の“大里地域”という表現は熊谷市・深谷市・寄居町が対象であるので、熊谷市を介しての申請であれば料金は安く出来る。ただし共催などに熊谷市が入っている必要がある。」

藤崎副会長

「ヘリテイジの会議室利用料はどうなのか。」

眞矢主任

「会議室利用料が 1 室分でさくらめいとの大ホール分くらいの料金であり、控室なども用意すると高額になる。」

藤崎副会長

「さくらめいととは会場としての利用でいいと思うが、ホテルについてはヘリテイジ以外にも熊谷市には多くあるため、今絞る必要はないのではないだろうか。」

志子田副会長

「どんなに安くなってもヘリテイジは半額にはならないと思われるので、宿泊候補地についてはヘリテイジにこだわらない方がいいと思う。」

芦澤副会長

「式典はさくらめいとで実施可能であるが、分科会については部屋割りが難しいのではないか。」

眞矢主任

「均等ではない形で割り振れば可能である。」

吉田事務局長

「月曜日に視察を行ったが、前回の正副会長会議にて熊谷市の 2 会場のご提案を受けて現実的に可能かどうかについて確認をすることが主目的であっ

た。あくまでこれについては案であり、関東ブロック研究協議会についての決定機関は実行委員会となる。会場に距離がある中でバス移動を含めた開催について果たして本案が実施可能かどうか、金額や会場キャパも含めて検討が必要であると思うが、熊谷での実施を前提として検討をするわけではないことを考慮してご協議頂きたい。」

藤崎副会長

「実行委員会にかけるうえでたたき台が必要である。本来はさいたま市を予定していたがそれ以外で実施する方針を正副会長会議で決定していたため、実行委員会へのたたき台は熊谷市開催を前提に提出し、実行委員会から別開催の提案も受け入れる姿勢で協議を進めていく必要があるのではないか。」

志子田副会長

「実行委員会の人選が難しいと思う。人選にあたっては骨組みが必要であり、それを受けて分担などをする必要があると考える。理想としては熊谷案以外の代案も用意したうえで協議をするべきであるが、それが難しい場合はゼロベースでの協議ではなく最低限たたき台が必要であると考え。」

磯部副会長

「人選については経験のある委員でないという意見を出すこと自体も難しいと考える、その人選も難しい。」

芦澤副会長

「実行委員会の協議のメインは当日の運営や進行になってくると思う。必要な情報は何名来るのか、何名呼ぶのか、どこに行くのか、予算をどうするのかである。どういう大会にしたいかということを決めることが大事なので、そのためにも実行委員会の立ち上げは早い方が良い。」

眞矢主任

「日程は確定しており、会場については視察の結果ヘリテイジ頼りが難しいということで次回正副会長会議までに近辺のシティホテルを宿泊候補地とできるかどうか情報収集を行う。」

眞矢主任

「実行委員会については県大会が準備委員会という名称で設置しているのがいかがするか。」

志子田副会長

「何をやるかを把握したいため、前回の正副会長会議でやるべきことの一覧表の作成を依頼した。やるべき事項の性質によって作るべき担当が分かれるので、振り分け表ではなく細かなやるべきことの列挙が必要である。」

藤崎副会長

「前回の関東ブロック大会での参加を受けて、学んだことが多いと思う。正副会長会議に出てくる案については事務局全員の意見を反映したもので出していきたい。事務局意見が反映された案で出てこないものでは出来ない。」

牧野常務理事

「4つの分科会をどう調整していくか、コーディネーターはいつ決めるか、記念公演はいつ調整するか、といったスケジュールがあって当然である。また本来は3月の理事会・評議員会の前に提案するべきであったと思っていたが相談がなく意見が出せなかった。また令和6年度・7年度のブロック別も

含めて眞矢主任の当時期の負担が大きすぎる事が予想される。事務局長は事務分担を会長と相談のうえ検討すべきと考える。」

寺田会長

「分科会については埼玉県社会福祉課の協力もいただく必要があると考えている、事前にご挨拶も伺いたいと考えている。」

牧野常務理事

「研修関係については埼玉県社会福祉課ではなく埼玉県社会福祉協議会の研修課の方が主担当であり連携もとれている。」

藤崎副会長

「12月6日に会場・日程・実行委員会の設置については理事会に承認を得て評議員会にかければ良いのではないだろうか。」

牧野常務理事

「上記3件については理事会で既に報告事項で報告している。また12月6日までに会場・日程について理事の承認を得ることは現実的に難しいため、評議員会では実行委員会の立ち上げについて理事会同様報告し、12月もしくは1月頃に実行委員会を招集し会場・日程について決定すればよいのではないか。」

藤崎副会長

「基本的には、評議員会で令和7年度の埼玉県開催と実行委員会設置について報告を行えばよい。」

眞矢主任

「県大会準備委員会のメンバーと同じメンバーで準備委員会のメンバーを組むということで相違ないか。」

牧野常務理事

「県大会準備委員会は関係なく選出理由は理事であるからとする。」

⇒開催日は7月10日・11日で決定。

⇒宿泊地については再度情報収集を行い次回正副会長会議にて報告。

⇒関東ブロックの委員会は実行委員会という名称で、設置について理事会同様、評議員会で報告する。

⇒実行委員会の構成員は理事とする。

5 報告事項

(1) 次回開催および今後の予定について

日時：令和5年12月14日（木）15：00～

場所：彩の国すこやかプラザ3階 団体交流室1・2

令和6年度の本会主要会議について日程調整を行う。

会議終了後、正副会長・常務理事・事務局で食事を実施する。

6 閉 会